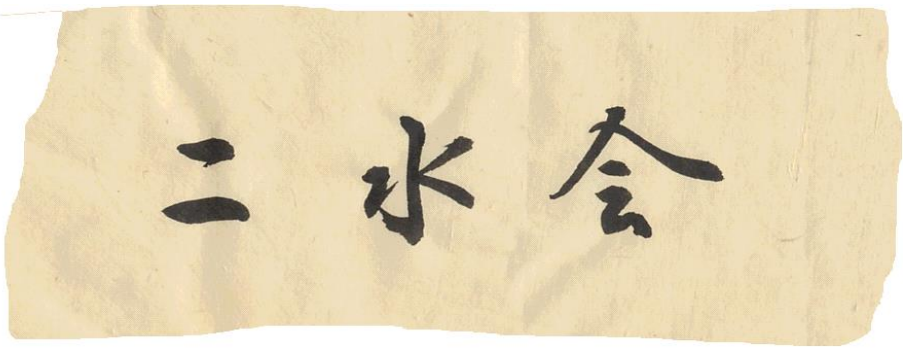
姫路南プロバスクラブ



令和５年８月　会報 118 号

6 月例会報告
会員卓話「姫路から世界に」　梶原一美
4 万キロを歩いた男伊能忠敬　松下英明
7 月例会報告
会員卓話「大谷翔平と藤井聡太」　長谷川一彦
大谷翔平のメンタル　長谷川一彦
平櫛田中美術館　藤原閲夫
サロマ湖ウルトラマラソン　前田外美子
ゴルフ結果

姫路南プロバスクラブ例会報告
令和５年６月例会

例会６月14日(水)12時30分～
出席者14名欠席者４名
最初に会長の一言
　農業のことや鉄鋼のこと各働き方。鉄鋼の3交代の働き方を農業にもとりいれれば生き物を扱っていても火を消さないで働く鉄鋼の労働者のように少しはやすめるのではないかと。あと20周年記念誌の発行で写真がなくて困っているのでお持ちの方は協力をということでした
　会計濱口さんから会計辞任の申し出
　がありました。後任について総務委員会、岡本浩一さんが残り任期、兼務して下さいます。

委員会報告事項

総務委員会
①　６月例会
　会員卓話　企画委員会梶原会員
　　「姫路から世界に」
　姫路生まれの会社が海外進出
② ６月の誕生　長谷川会員、益田会員、
　　市河会員
③ ７月例会　７月12日12時30分～
④ ８月例会　８月９日正午よりホテル１階
　「セリーナ」において納涼例会を予定。

企画委員会
　グルメの会を企画しています。
　「イタリア料理」７月５日11時

広報委員会
　会報発行
　新しい広報委員での発行となりました。
　原稿をお願いします。

ニコニコ報告
・中野会員　新体制の広報委員会で初めての「二水会」会誌発行となりました。皆様のご意見お願いします。
・益田会員　満83歳になりました。頑張って90歳まで生きようと思っています。できる限りプロバス例会に出席したい。

６月例会会員卓話　梶原会員
「姫路から世界に」

姫路生まれの会社が海外進出で得た教訓
　まず大和工業の沿革、そして海外進出に至った経緯から、梶原委員の体験を通じての話をスクリーンに投影しながら説明でした。
１．50年間仕事を通じて得たこと
　成功という言葉は禁句
　人は成功というが、一歩間違えば、会社の屋台骨を揺るがすもの。本当に紙一重といってよい。山あり谷ありで、順調に進んだものはない。
ビジネスの原点は人間関係。
２．海外での事業展開
　初めての海外事業は、1980年代後半の米国続いて1992年にタイ2002年韓国、2009年中東、2020年ベトナムと続く。
３．米国合弁事業に際して取り組んだこと
米国とタイの事業を通じて得たものを中心に話す。先ず３年間という短期間の米国(深南部の田舎)駐在。
　建設当初から技術者10名に加え創業当初、創業指導のため40人の社員が駐在。社員用にホテルを借り上げ、１室を食堂とし、日本

でコックを雇い、食事を提供。
私の入社は 1972 年、労務課、海外進出の検討を始めた時は経理、のちに人事に移動して、プロジェクトを裏方から支える役割。当社の役割は技術だったので、派遣社員は製造部門の社員であった。後に事務系社員を派遣することになったが、人選に難航。
（南部英語に恐れをなして皆駐在を拒む）
その結果私が駐在することになる！
1991 年 2 月 22 日に赴任、1994 年 3 月に帰任。その間、家族も渡米あり。

４．タイでの合弁事業

合弁相手先にこだわりサイアムセメントに決定した。名称 Siam Yamato Steel Limited(株式会社)　資本金 30 億バーツ

サイアムセメント	51%
大和工業	33%
商社（三井物産、住商）	16%

タイ人はプライドが高く、日本人のいうことを聞かず苦労。その後にタイで経済危機があり、タイ人との信頼関係は 2 度の増資における当社の対応と SIS 中心の対応で人間関係が漸くうまくいくようになった。
このように、米国、タイでの経験を通じ、信頼関係の構築の重要性を学んだ。

5．米国とはどんな国？

米国深南部の小都市に駐在し、日常生活で実感した私の感想
・法により守られる自由と平等
・努力が報われるアメリカンドリーム
・数々の革新技術を生み出す国
・守り継がれる慣習と伝統
・その一方で依然残る差別と貧富の差、
平等と格差：公立高校と私立高校との学費や環境の違い
飲酒の制約：飲酒については州、郡により様々な法律、制約がある。
カントリークラブ：コミュニティが盛ん
再度、米国の感想を述べると
・アメリカは大いなる田舎の集合
・NY や LA はアメリカであってアメリカでない
・法によって確保される自由と平等、そして残る格差
・多様性を受け入れる社会（革新と伝統がミックス）
これらが又米国の強みになっていると思う。

（益田　記）

広報委員会でランチ会

プロバスでのランチの会より一足お先に広報委員会で 6 月 21 日にランチ会を開きました。川本委員長、中野、長谷川、益田、藤原顧問の 5 人で長谷川さん紹介のフランス料理店シェ・マツ（市役所の南）に行きました。結構美味しく価格も思ったより安くそのせいか常連客も多く（他は女性客ばかりでした）みなさんにもお勧めできそうな店です。食事は勿論、会の時とはまた別な楽しいひと時を過ごしました.

（益田　記）

7 月ランチ会

7 月 5 日にイタリアンレストラン アンティーコ アルベルゴでランチ会を行った。13 名が参加し、普段の例会とは雰囲気が変わったこともあって楽しい時間を過ごしました。

姫路南プロバスクラブ 7 月例会
令和 5 年 7 月 12 日（水）12 時 30 分～
出席 16 名　欠席 1 名
委員会報告事項
　総務委員会
① 7 月例会　会員卓話長谷川会員
② 7 月生まれの会員該当する方なし。
③ 8 月例会
　納涼例会　8 月 9 日（水）正午より
　場所　　日航ホテル 1F「セリーナ」
　会費　　3,000 円「フリードリンク」
　なお 11 時より役員会を行います。
④ 9 月例会　9 月 13 日
（案）市政出前講座またはフリートーク
⑤ 姫路南ロータリークラブの新年度役員が決まりました.
2023 年～24 年
　会長　小林義昭様
　幹事　柳川芳博様
　社会奉仕委員長 上坪正人様

はじめに大橋会長より一言
　暑さに負けずにいろいろたのしくすごしましょう。楽しい計画もあります。
企画委員会より提案
先日のイタリアンランチ会が良かったのでまた提案します。
10 月の例会として家島へ船で渡り、美味しい魚を堪能。
12 月の例会忘年会として列車等で日本海側に蟹を。
審議の結果賛成の拍手で決定しました。詳細を検討することになりました。
ニコニコ報告
・前田会員　4 年ぶりに開催のサロマ湖ウルトラマラソンの応援に行ってきました。高齢者の奮戦には敬意ばかりでした。
・大橋会員　暑い日が続きます。体調管理でがんばりましょう。
・川本会員　広報誌 117 号できあがりました。
・濱口会員　いつもにこにこ健康で

7 月例会会員卓話　長谷川会員

　7 月の卓話は長谷川氏による「藤井聡太」と「大谷翔平」の話でした。昔は「巨人、大鵬、玉子焼き」で現在は「藤井聡太、大谷翔平」が大好きだそうでした。藤井聡太の「経歴」「学歴」、「趣味、性格」と「プロ

棋士」などについてでした。
大谷翔平の「礼儀」「前向き姿勢」「周囲への気配り」「身だしなみ」「冷静な思考」「大谷が愛される訳」「幅広いファン」でした。二人とも大変いい性格の持ち主であり凄い力のある若者たちであること、彼らの親たちも素晴らしいこともわかった。

藤井の偏差値にも言及があり東大生の１番より賢いとか。二人に対する長谷川会員の思い入れの深さを感じました。（川本記）

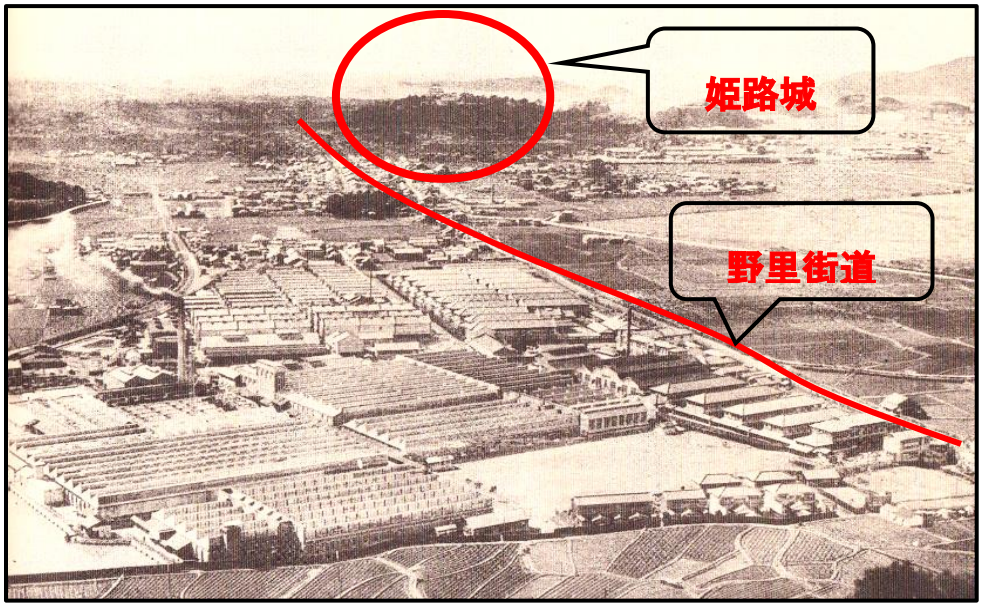
『４万 km を歩いた男、伊能忠敬の「人生二度有り」』(シリーズ 20)

松下秀明

姫路(播磨)に紡績所が多数創設されたのはなぜか？

姫路に目を向けてみると、前述の河合寸翁のおかげで姫路藩の専売品として姫路木綿は全国に販路を開いた。しかし、明治になり藩がなくなると販路を失い、しだいにさびれていった。さらに追い打ちをかけるように、西洋の安い綿織物が大量に輸入されたので、姫路の織元や木綿問屋は次々に倒産した。当時、播磨県令をしていた森岡昌純は薩摩藩の出身で、薩摩藩は江戸時代の終わりごろ、イギリスから紡績の機械を買って藩営の紡績工場を作って成功していた。森本は姫路木綿の再興を考えて政府から補助金をもらい、明治 11 年(1878) ３月、姫路市の八代の官有地に県立姫路紡績所を建設した。県立紡績所は姫路の紡績産業に大きく貢献したが、明治 32 年に焼失してしまった。今は男山の北側(八代)の船場川沿いに水路が残っているだけである。

なぜ薩摩藩が紡績工場を作ったのか。江戸時代、薩摩藩には長崎や沖縄から海外の情報が入っていた。藩主島津斉彬は幼いころから海外の文化や技術に興味を持ち、海外の産業や工業技術を薩摩藩に取り入れることを考えていた。斉彬の死後もその思想は受け継がれたが、文久二年(1862)、生麦事件が起こったことが工業化への加速のきっかけとなった。鹿児島県上野原縄文の森のブログによると、「*この戦争でイギリスの技術の高さを知った薩摩藩は、さらに西洋に学び技術力を高める必要性を感じ、元治２（1865）年に 19 名の若者をイギリスへ留学させ、西洋の技術の導入に努めました（薩摩藩英国留学生)。(中略）西洋の技術を学び集成館事業に携わっていた石河確太郎（奈良県出身）は、イギリスから紡績機械を購入して紡績事業の拡大を行うことを提案しました。留学生として学んだ五代友厚らは*



イギリスから紡績機械を購入し、紡績の技術者を鹿児島に迎えて技術指導を受ける準備を行いました。この工場として建設されたのが「鹿児島紡績所」・・・」と書かれており、日本初の洋式紡績工場鹿児島紡績所は明治 30 年(1987)に操業し、そののち取り壊された。その分家が大坂に第二号の堺紡績所（大阪府堺市堺区）が創設され、さらに民間の鹿島紡績所（東京都北区）が創設され、これらを始祖三紡績と呼んでいる。おそらく森岡昌純はこの経験を姫路の県立紡績所に適用したのだろう。また、この留学生たちは 1867 年の第二回パリ万博に、隠密に参加した薩摩・琉球藩の手助けをしたのであった。

山崎康央氏の著書『紡績業の発展を支えた技術企業家―山辺丈夫と菊池恭三―』によると、「*明治期の開国によって、品質面で劣っている国産品に代わり、欧米から低価格・高品質な綿糸の輸入攻勢に遭遇した。明治初期の綿糸の輸入額を見ると、明治元年(1868)の 1,239 千円から、明治 10 年には 6,694 千円まで増加している。この間、わが国輸出総額に占める綿製品の輸入額は３～４割を占めるまでになっていた*」と書かれ、明治政府は大きな危機意識を抱いていた。前出の始祖三紡績は規模が小さくほとんど貢献しなかった。

渋沢栄一は、この危機に対し民間だけの大阪紡績を設立した。前例の失敗を反省し、技術者は日本人とした。その候補として、英国留学中の山辺丈夫に私費で当時 1500 円(今の価値で 3000 万円ほど)もの留学資金を送り、英国の紡績技術を徹底的に学ばせた。山辺丈夫は 1851 年に石見国津和野藩士、清水格亮の次男として生まれ、３歳のとき同藩士山辺善蔵の養子になった。1877 年、丈夫は旧藩主亀井家養嗣茲明(これあき)の英国留学に随行して、ロンドン大学ロイヤル・アカデミーに入学した。1879 年、栄一の依頼によりロンドン大学からキングス・カレッジに転じ、そこで機械工学と機関学を学んだ。さらに、実務勉強をするためマンチェスターに行き、ブラッグス氏の経営するローズヒル工場で実習の機会を得ることが出来た。

さまざまな準備を経て明治 15 年(1882)、大坂紡績は設立された。初代社長には藤田伝三郎、栄一は相談役、丈夫は工務支配人となった。同書で山崎氏は次のように言っている。「*大阪紡績は松方デフレ下という厳しい経済環境にありながら、創業当初からめざましい成長と遂げた。その成功要因として、宮本又郎(『日本の近代 11 企業家たちの挑戦』中央公論新社)は、①大規模生産のメリット、②昼夜２交代制の導入、③外国綿の利用、④製品政略の適切さの４点を挙げている*」。

当時、第一銀行の頭取であった栄一の最大限の政治判断であり経営手腕であった。1898 年に丈夫は社長に就任したが、業績悪化を乗り越えるため、設備投資の再開や工場拡張、新工場の建設などを推し進めた。そして、1914 年、三重紡績と大阪紡績は合併し、東洋紡績が創立され、初代社長に丈夫が就いた。その成功の背景は、栄一が大阪紡績と同じように三重紡績を支援していたため、両社には共通点があり強みも補完しあった。ちなみに、この大阪紡績は日本版産業革命の走りといわれている。

東洋紡績の大規模な姫路工場が増位新町と本町にまたがっていた(『姫路百年』より。右の写真は北側から写し、遠くに姫路城が見える)。大正 8 年(1919)6 月より昭和 50 年(1975)7 月まで操業し、閉鎖後は姫路市が買い上げ、副都心計画が実施された。野里駅前には公共施設の花北モール、西端にはイオン姫路店(旧サティ)、その間に膨大な数のマンション群が建設された。かつて私も 20 年余りそこの一角に居住していた。今でも電柱には現住所の上に、「トウヨウボウ」とか「東洋紡跡」のプレートが残っている。

それ以外に 1922 年、綿産業に参画した龍田紡績がある。本社は東延末で、1945 年の

空襲で工場は全焼したが 1949 年に復活。しかし、時代の波が押し寄せ、今は熊本工場だけになった。本社工場の跡地には姫路イオンタウンやスポーツジムのホリデイが進出している。

1906 年、飾磨区細江に大成紡績株式会社が設立された。その後、現シキボウに吸収され、飾磨工場から姫路工場まで 77 年間稼働し、1991 年に工場を閉鎖。再開発を経て 1993 年、当時西日本最大の姫路リバーシティショッピングセンターがオープンとなった。姫路にも多くの紡績会社や工場が出来たが、今は市民の生活の場に代わっている。

高田屋の没落と北風家の凋落

嘉兵衛は地元に帰り 59 歳で亡くなった。その後、弟・金兵衛が高田屋を継いでいたが、嘉兵衛の死から 6 年後、幕府からロシアとの密貿易の疑いをかけられる。Architec の寄りみちカメラのブログによると、「*評定所での審問の結果、密貿易の嫌疑は晴れたものの、ゴローニン事件のときに嘉兵衛がロシア側と取り決めた「旗合わせ」(今後、高田屋の船から一切の略奪はしない)を隠していたことを咎められ、闕所(田畑、家屋敷、家財を没収)および所払いの処分となり、高田屋は没落した*」ということが書かれており、一説によると、没収された財産は 10 兆円を超えるともいわれている。

その主な内容は『阿淡年表録』によると、「*唐船積み出米高 198,000 石、有米高 3,960,000 石、有り金高 11,218,000 両、船数五百石積以上 450 艘、召使人船手の外 982 人、居宅表口 450 間裏行 390 間　居宅 175,500 坪、店数：江戸、大阪、蝦夷(箱館)3 店*」などとなっている。私の推測では北風家の逆恨みもあるのではないかと思う。嘉兵衛はあるきっかけで北風家の船箪笥(下図：高田屋嘉兵衛顕彰館)を手に入れ、中身を見てしまった。船箪笥とは、船に積む沈まない金庫で、重要な書類などを入れておく。そこには北風家が抜け荷をして荒稼ぎをしていた帳簿が入っていた。嘉兵衛はそれを表ざたにせず荘右衛門に渡した。荘右衛門はすぐその場で焼き捨てたという。北風家の隠し財産 60 万両の一部は抜け荷の利益だったのだろう。前に述べた大坂への荷下ろしの件などが重なって、北風家の番頭たちも嘉兵衛を避けていたそうだ。この時代、幕府も商人の蓄財を嫌っており、当事者が亡くなると難癖をつけて全財産を没収し、財政の改善を図るようなことを各所でしていたようだ。

一方の北風家は、第 66 代当主北風正造が問題であった。正造は、山城国の郷士長谷川家に生まれ、九条関白家に仕えた後、嘉永五年(1852)、北風家に養子に入り、安政二年(1855)に家督を相続し、荘右衛門貞忠と改名した。明治二年会計官商法司判事となった際に、北風荘右衛門貞忠から正造と改名した。表向き幕府の御用達を勤めながら、西郷隆盛ら勤皇の志士側たちに地下蔵にあった隠し財産 60 万両の資金と情報を提供し倒幕を推進した。初代兵庫県知事伊藤博文とも友人関係で政府の役職にも就いた。しかし、博文の忠告も聞かず、相場の失敗、部下の不正、資金の枯渇などで家が傾いたが、これまで支援した誰も助けはしなかった。北風家もここに倒産してしまった。銀行の設立、湊川神社の造営、商法会議所の設立など、数々の事業に貢献した正造であったが、時代の波には逆らえなかった。

淡路島の洲本市五色町は嘉兵衛の生まれ故郷

毎年家内と淡路島を訪ね、宿泊して四季の料理を楽しんでいる。今回エッセイを書くために少し遠回りをして、6月の暑い日、洲本市の五色町にある高田屋嘉兵衛顕彰館を訪れた。それは丁度洲本の街から真西へ島を横断した、海岸近くにある「ウエルネスパーク五色」の入り口にあった。嘉兵衛の邸宅跡も海岸近くの都志の町中にある。嘉兵衛の原点である。1995 年に五色町によって開館された顕彰館に入った。訪問者は私一人しかいなかった。おかげで窓口の担当者がいろいろ質問に答えてくれた。嘉兵衛と松右衛門が出会ったのはどこかと質問したが、分からないといわれた。恐らく北風の湯であったのではと聞き返したら、そうかもしれないとのこと。司馬遼太郎はなぜ『菜の花の沖』を執筆したのだと聞いたら、司馬氏は海が好きで戦争の悲惨さを体験しており、黄色い花が平和の象徴として好きであったとのこと。司馬氏の小説は半分が創造であると教えてもらった。しかし、勝手に創造したのではなく、いろいろ調べて確信をもって創造したそうだ。館内には辰悦丸の 1/2 の帆船が展示されていた。さらに 2000 年に放送された竹中直人主演のNHK ドラマのプロモーションビデオを15分間見せてもらった。それ以外にも貴重な資料や写真、実物大の物品の展示があり、嘉兵衛の活躍やロシアとの関係を知るのに十分な情報がぎっしりと並べられていた。

まだ訪れたことはないが、東海岸の塩田には「淡路ワールドパーク」があり、そこには実物大の辰悦丸が展示されている。この辰悦丸は、1985 年、淡路島と四国が大鳴門橋で結ばれたのを記念して、兵庫県が「くにうみの祭典」を開催した時、寺岡造船(現株式会社栗之浦ドック淡路工場)が 6500 万円をかけて建造し兵庫県に寄贈したもの。この話を聞いた北海道江差町の若者が、是非辰悦丸で江差を訪れてほしいと懇願して実現した。耐久性を向上させて 1986 年 5 月 16 日、ついに 18 の港を経由して江差に入港した。2500 キロメートル、41 日間の旅であった。ただし、海上保安庁の許可がおりず、タグボートに引かれての航海だった。途中で帆を張って帆走したら、タグボートを追い越す勢いがあったそうだ。関係者は「先祖の血が自分たちにも脈打っているのを感じた」と話している。

司馬遼太郎の歴史観と高田屋嘉兵衛の『菜の花の沖』

少し横道にそれるが、皆さんもよくご存じの司馬遼太郎氏について少し述べたい。司馬氏が 1996 年に亡くなられ、その翌年にプレジデント社が、『プレジデント臨時増刊司馬遼太郎がゆく』(1997 年 3 月号)を発刊していたことを思い出し、自宅の本棚で見つけて読み返してみた。そこには多くの人たちが巨匠の生前の姿を蘇らせていた。司馬氏の小説を書く時の心構えや、『菜の花の沖』のことも少し書かれていた。司馬氏は大阪市出身で産経新聞在職中に『梟の城』で直木賞を受賞し、翌年退社し作家になった。

プレジデントの記事の中にこんなものがあった。「司馬遼太郎の勉強法」で神田の古書店・高山本店の高山富三男氏はこう証言している。「*私が司馬遼太郎さんの資料収集のお手伝いをしたのは、『竜馬がゆく』が最初だった。その時の司馬さんの指示は「とにかくまずありとあらゆる人物評伝を徹底的に集めてください。政治家でもいいし実*

業家でもいい、軍人でもいい武人でも芸術家でも何でもいいから」(中略)もちろんその後、幕末維新の時代の資料、土佐に関する資料、竜馬と関係のあった人たちの資料、竜馬が旅をした地域の資料など、『竜馬がゆく』を書くのに必要と思われる基礎的な史料に関する注文が来たことはいうまでもない」と言うのである。その結果、高山氏が集めた資料はおよそ 3000 冊、重さにして 1 トン。昭和 30 年当時で 1000 万円という金額になったそうだ。これを全部読んだのかと意地悪な質問をした人がいる。司馬氏は全部読んだと答え、気になるところに赤鉛筆で印をつけていた。井上ひさし氏によると、カメラのようにページを俯瞰して写しとる「フォトグラフィックメモリー読書法」だったそうだ。これは産経新聞の記者をしている当時から訓練によって会得したと作家の寺内大吉氏も証言している。当時、京大記者クラブの担当で暇なときに近くの図書館に通い、図書館の本をすべて読んでしまったという武勇伝が残っている。まさに小説家と歴史研究家の境を攻める人であった。司馬遼太郎が小説を書きはじめると、神田の古書店から本がなくなるとの伝説が残っているのも頷ける。

文芸評論家の尾崎秀樹氏は司馬氏を評して、「乱世史観」と「人間観」が司馬文学の真骨頂という。歴史家に勝るとも劣らない時代考証を重ねたうえに、独自の史観を築き、広く国民に愛される文学を作り上げた。『菜の花の沖』では、高田屋嘉兵衛の波乱万丈の人生を、取材を始めてから 10 年以上かけて書いたとされ、まさに司馬氏独自の史観が見事に描かれている。そんな小説を簡単に読める我々は幸せである。

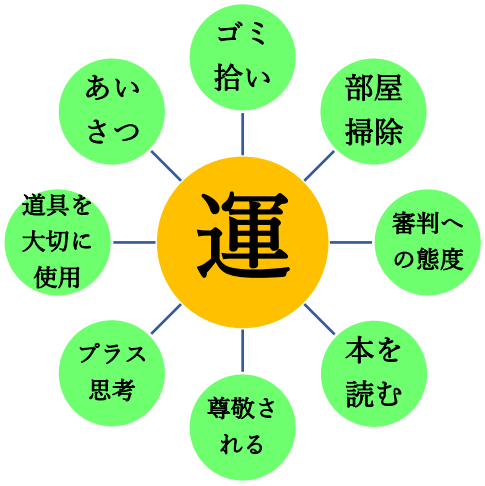
以上

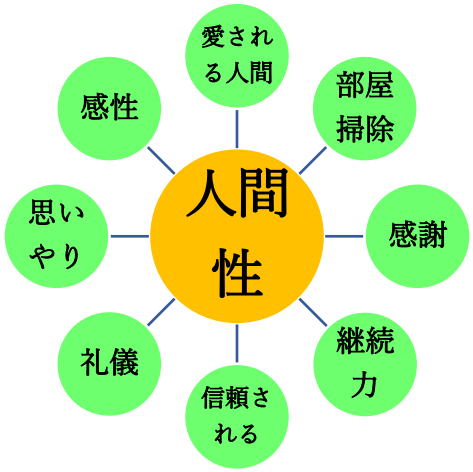
大谷翔平のメンタル（精神）

長谷川一彦

大谷翔平は米国野球メジャーリーグで投

打二刀流で大活躍です。この成功の裏には本人の努力を第一として両親の育て方、二刀流を認め続けたエンジェルスのジョーマドン監督、日本にいますが花巻東高校の佐々木洋監督は知る人ぞ知る存在のようです。佐々木は常づね「運というのは、運をつかむために自己をコントロールしている





人のもとにしか来ない。』と言っており「目標達成シート」を生徒に求めて来ました。これこそが大谷翔平に最強のメンタルを植え付けてきた原点なのです。さてこの目標達成シートとは一つの目標には 8 つの要因

があると示す曼荼羅ノートです。

これは大谷翔平が花巻東高校 1 年の時に実際に考えたものです。

また英語での会話に渡米後 6 年にもなるのに水原一平に支援してもらっています。和田秀樹（心理学者）の分析では「大谷翔平は日常会話くらい大丈夫。絶妙なニュアンスは無理なので日本語でする。結果手を抜くことで気持ちの余裕を得ている」と。そしてスポーツ心理学者の児玉光男は「大谷は内発的モチベーションは持っているが外発的モチベーションはあまり持っていない。」と言います。内発的モチベーションとは「どうせやるなら自分が楽しめる仕事がしたい。」とするもので外発的モチベーションは「名声を得たり金銭交渉を第一義とする。」ものです。大谷翔平の行動を見ているとお金には無頓着で野球を楽しんでいると思います。

また球場でごみ拾いしたりファンには丁寧に接する。審判にも紳士的です。失敗してもバットを折るようなことはしません。これらの結果大谷翔平は世界からリスペクトされ特に米国では敵軍の選手、監督、ファンからもリスペクトされている。

平櫛田中(ひらぐしでんちゅう)美術館

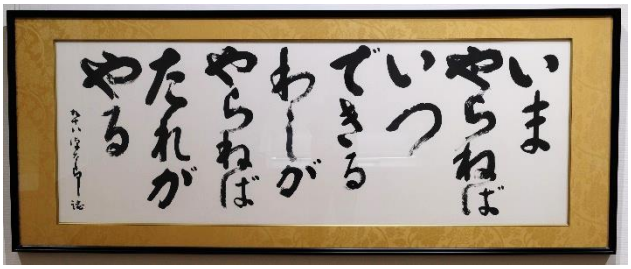
藤原閲夫

妻と近代彫刻家の平櫛田中美術館（岡山県井原市）を訪れた。妻に言わせると岡山県人として一度は訪れたい所だそうです。井原市は広島に近い山と川に挟まれた地方都市で、鉄道もありますが乗り継ぎが多く、

車で行きました。

平櫛田中は明治 5 年生まれで岡山と東京小平の 2 カ所に美術館があります。名前は知りませんでしたが、歌舞伎役者の像は記憶にあり、この制作者だったのか、と合点しました。最初に小さい像を彫り、最終的にほぼ等身大に仕上げているのだそうです。美術館にあったのはその小さい方、完成品は国立劇場にあります。小さい像をそのまま拡大すると印象が変わるため、試行錯誤を何年も繰り返したそうです。

沢山の実物を見ると、彫刻の表情など素人目にも希有な彫刻家と納得します。107 歳の長寿でした。書「不老　六十七十は　はなたれこぞう　おとこざかりは百から百から　わしもこれからこれから」（103 歳）、「いまやらねばいつできる　わしがやらねばたれがやる」(98 歳)。　　すごいね。



サロマ湖ウルトラマラソン

前田外美子

還暦を迎えた息子が 4 年ぶり 7 回目の 100 キロマラソンに出場した。その応援を今年も出来た。毎回いつも曇天だったサロマ湖は初めての晴天に恵まれた。サロマンブルー、空の青、海の青、湖の青、なるほどのブルーであった。11 回走るとゼッケンはブルーに、20 回走るとゴールドに。完走のご褒美は手型，足型が碑に刻まれる。それを楽しみに、あるいは目指して全国から走者が集まる。

今年は沖縄からも来ていた。宿泊地を早朝 2 時半に出発して 5 時スタート。

制限時間は 13 時間。かなりの落伍者も出る。ランナー3000 人ほど。息子はベストタ

イム 11 時間を切ってゴールした。時間配分通りのランだったようだ。

観戦者には 4 か所に応援バスがピストンする。折角応援に来たのに 1 回も出会えず不安のまま移動する人もいた。今年の観戦はスマホに助けられた。10 キロ毎に走行タイムや予定タイムが記録され”走っている”の感は気持ちの上で大きかった。

スタート時の還暦息子

空港のある旭川から北見、現地を経ての往復レンタカーの走行距離が 650 キロほどあってびっくりした。

北見はカーリングの聖地、立派なカーリング場には日曜日とあって広大な敷地には車が満車であった。いつものように旭川空港出発前には，旭山動物園に寄り動物たちのもぐもぐタイムを楽しむ。園内をアップダウンするうちに足の披露回復にもなるようだ。

応援は日陰もない中立ちっぱなし。かなりのエネルギーも使う。来年も行けるのかな、であるが沿道に咲くラベンダーの紫、マーガレットの白、芥子の花のオレンジ。走ってもはしっても眠気も出ない。

走者も観戦者もそれぞれ元気なマラソン旅であった。

第 6 回姫路南・赤穂・相生 PC 合同ゴルフコンペ結果

令和 5 年 7 月 3 日　竜野クラッシク GC

	グロス	HDCP	ネット
6 位 市河保俊	96	19	77
7 位 大橋一喜	113	36	77
8 位 松下秀明	94	16	78
13 位 坪田一夫	98	17	81
14 位 長谷川正子	106	24	82
19 位 中野　剛	96	10	86
22 位 前田外美子	119	14	105

第４9 回姫路南 PC ゴルフコンペ結果

令和 5 年 7 月１５日　龍野クラシックＧＣ

	グロス	HDCP	ネット
1 位 市河保俊	96	24	72
2 位 中野　剛	96	20	76
3 位 松下秀明	94	25	75
4 位 坪田一夫	98	20	78
5 位 大橋一喜	113	35	78
6 位 長谷川正子	106	25	81
7 位 前田外美子	119	34	85

シスレー

編集後記

連続テレビ小説「らんまん」で植物学者牧野富太郎の物語をやっています。庭の雑草の中にもよく見れば可愛い花が咲いています。赤、黄色、ピンク小さな花です。今までは気付かなかった雑草です。そもそも雑草とは我々が望まない時に望まない場所に生える植物だそうです。
第 118 号できました。

姫路南プロバスクラブ広報誌
第 117 号　　令和 5 年 8 月
姫路市南駅前町 100　ホテル日航姫路 601 号室
姫路南ロータリークラブ事務局内
電話 079-224-8224
会報発行：広報委員会